

エッセイ

石油の街・バクーの3ヶ月

2004年4月

(その2)バクーと気候と生活

バクー西部

バクーの西部 130 キロメートルの所に、シューマツハという高原の街があります。コーカサス山脈のふもとで、標高 800 メートルの高地です。シューマツハは、アゼルバイジャンがシラバンと呼ばれていた 500 年前に首都でしたが、度重なる大地震のために首都機能を失い、今は別荘地になっています。車がシューマツハに近づくと山が多くなってきて、高原の空気のおいがします。山の緑は高度が高くなるにつれて豊かになり、稜線に出ると箱根のスカイラインの

ように見晴らしの良い景色になります。大きな木は少ないのですが林が多くなり、どういうわけか馬の放牧が増え、馬に乗っている人も見かけるようになります。バクーは砂漠に開かれた街ですが、ここは緑の高原の街です。緑が多いのは雨が多く土地が豊かだからで、おいしいぶどう酒の産地になっています。高原のと



バクー水源地の森 (PJ メンバーと現地スタッフ : 筆者はいない)

ころどころに貸し別荘があり、夏はバクーから大勢の家族連れが避暑を兼ねてキャンプにやってくるそうです。

高原の一番高い所には天体観測所があり、立派な建物と自由に向きを変えられるいくつもの大型望遠鏡があります。ソ連邦の時代にはここに数十人の専門家が滞在していたそうで、宿舎も散在しています。しかしロシアの支援がなくなった今は閑散としていて、それでも残っている専門家が天文台を案内してくれました。話によるとソ連からの収入が激減した専門家達は、天文台を守りながら慣れない農業を始めて、どうにか生活を支えているそうです。ここにもソ連邦崩壊の影響が色濃く残っています。

バクーの気候

日本にいるときにバクーの気温を調べたのですが、東京や横浜とそれほど違わなかったため、服装の準備にはあまり注意しませんでした。でもここにきてみて、気温は違わなくても気候には大きな違いがあることがわかりました。まず大きな違いは風です。3月の始めにバクーに着いたとき、なんて風が強い街なのだろうと思いました。風の



バクーの高台から見たカスピ海

嫌いな私は、その後も毎日毎朝、今日は風が弱く暖かくなっていないか期待して表に出ました。でもそのたびに耳元に聞こえるヒューヒューという風音にがっかりし、強風に大きくしなる松の木をうらめしく眺めていました。この風のために、冬は東京や横浜よりかなり寒いと思います。バクーという地名には、もともと風の街という由来があることをここにきて始めて知りました。風は夕方から強くなることが多いので、昼間が暖かくても油断できません。そういえば現地の人は、暖かいと思う日でも長いコートやジャンパーで完全武装しています。3月はいつまでも寒いと思っていたのですが、4月に入ると急に暖かくなり桜が咲きました。日本の桜と違って背が低く、花びらの色が白いので目立ちません。きっと種類が違うのだと思います。

4月の後半になると風がすっかり弱くなり、気持ちの良い気候になりました。冬の間は茶褐色だった大地がいつのまにか若草の緑におおわれ、新芽をつけた木々には鳥のさえずりが絶えなくなります。公園には白い椅子とテーブルが並べられ、冬の間は家にこもっていた人たちがでてきます。新緑の下で紅茶を飲みながら、何時間もおしゃべりを楽しんでいました。おしゃべりは男性どうしが圧倒的に多く、次が家族連れで、その次が女性どうし、男女のカップルが一番少ない感じです。これをみると女性の方が男性よりおしゃべりが好きというのは、偏見のような気がします。バクーの公園の、もう一つの特長はビリヤードです。ポケットのついたビリヤード台が、5台から場所によって10台以上も並べられ、主に若者がゲームを楽しんでいます。5月に入るともっと気温が高くなり、昼間は半そでが欲

しいほどです。通訳の人にここでは冬の次に春を飛ばして夏になってしまうのではないかといったら、夏はこんなものではない、気温は40度にもなると云われました。5月と6月が一番よい気候だそうです。暖かくなるにつれて、松の木には新しい松ぼっくり（松笠）がたくさんでできます。去年の大きい黒い松ぼっくりは、だんだんと上に追い上げられ、次々に落下していきます。街角ではこの松ぼっくりで串刺しの肉を焼いています。

レストラン

バクーの日常語はトルコ系のアゼルバイジャン語ですが、公用語はロシア語なので、学校では全生徒がロシア語を習っています。ですからオフィスではロシア語も通用しますが、街ではあまり通用しないようです。最近ではロシア語よりも英語教育に熱心なようで、大人よりも中高生が結構英語を話します。新聞はアゼルバイジャン語とロシア語が発行されています。街では簡単な英語、たとえばビールもサンキューも通じないので、ローカルレストランでは注文に困ります。ケバブという串焼肉が一般的な料理ですが、羊と鳥が中心です。豚肉はイスラム教の影響で、ほとんど食べません。羊のケバブは結構美味しいので、昼食によく食べました。言葉がわからないので肉を選ぶ時はゼスチュアが頼りです。滞在していたマンションの近くのレストランに行ったときには、ゼスチュアもわからなかったようで、注文がわかるように、店の人が盆の上に羊、鶏、七面鳥、うなぎ、ボラのような魚を載せて見せにきました。これだと安心です。注文すると最初にパンとチーズ、それにねぎと春菊のような野菜がでできます。ドレッシングの習慣はなく、青野菜はそのまま食べますが少し辛いです。チーズはときどき羊特有の強いにおいがあります。

魚はチョウザメとボラのような魚が売られていますが、種類は非常に少ないです。小さなレストランでケバブを注文すると、裏に吊るしてある肉塊から注文した量を切り分け、串に刺して炭火で焼いて持ってきます。注文を受けてから切ったり焼いたりするので時間がかかりますが、ここでは20分程度待つのは当然とされています。で



バクー市街地

も空腹時の 20 分は相当長く感じます。街ではいたるところで肉の塊が吊るされて売られています。場所によって 50 メートルぐらいの間隔で、いくつもの店が並んでいるほどです。売られている肉のほとんどは羊ですが、売り場の横手には数頭の羊が繋がられていますから、食材はかなり新鮮といえるでしょう。



バクー市内公園の彫像



市街地の筆者

ダウンタウンにいくと英語のメニューがあったり、カタコトの英語が通じる店があるので、ヨーロッパ系のビジネスマンがよく利用しています。北京飯店という中華料理店もありました。日本料理店は 1 軒だけあります。一度だけ入ったことがあります。散らし鮭や天井、それに焼きうどんもありました。店の名前も雰囲気も日本とかけ離れていますが、味は予想以上に日本の味でした。もういくつもの安心できるレストランを覚えました。値段は高くても 10 ドル程度ですから、値段をあまり気にする必要はありません。

バクーの交通

交通は地下鉄とバスとタクシーがあります。地下鉄はきれいとはいえないし、ルートが限られています。バスは日本のような大型車ではなく、定員が 20 人程度のマイクロバスで、どこでも見かけるほど台数が多いです。走行ルートと行先は前面に貼ってある番号でわかるようになっているのですが、地名になじみがなく、アゼル語が読めない外国人は容易に乗りこなせません。ですから外国人にはタクシーだけが頼りですが、メーターがなく、外国人と見ると必ず吹っかけてきます。ですから最初に行きたい場所を地図で示し、次に現金を見せてそれで行くのかどうか確認し、それから乗り込みます。ときには故意に遠回りして、降りるときに「もっとよこせ」という場合もあります。そんなときは厳しく「ノー」と言いますが面倒です。ですから夜でなければ、歩けるところは歩いていました。

一度、仕事の仲間 3 人がタクシーで「おいはぎ」にあつて、所持金を全部とられました。かなり酒に酔ったままタクシーでダウンタウンに行ったのですが、3 人の制服警官に検問され、その制服警官がおいはぎに変身したのです。あとから現地の事情に詳しいイギリス人に聞いたら、この方法が典型的なおいはぎの方法で、酔った外国人がターゲットだそうです。悪質なタクシードライバーは、酔った外国人を乗せると仲間に合図して検問させ、取った金を後で分配するそうです。でも危害を加えることはないとのことでした。なお警官になるのは簡単ですが、給料が安いのでこんなアルバイ



バクー中心部の高級アパート

イトで生活費を稼ぐ不心得者が少なくないようです。そのためか検問が非常に多く、車の持ち主は検問されたらいくらか払います。払わないとなんくせをつけられるからです。私が現地の人と車に乗っていたときも検問され、かなり抵抗していましたが結局は払わされていたものでした。困ったものですね。

ショッピング

週に何回かはスーパーマーケットに食料品を買いに行きました。でも日本と違って、すぐに食べられる総菜や半調理品がありません。それに、1 パックの量が多いので単身者の自炊には不便です。たとえば牛肉や羊肉は1 キロ以上のパックになっているし、鳥は1 羽単位が普通です。私はなるべく小さな単位で買うようにし、鳥は小さな枝肉を近所の小さな店で買うようにしていました。卵もスーパーではなく近所の店で買っていましたが、6 個から 10 個のパック売りだけでなく、1 個ずつのバラ売りも一般的です。野菜と果物は近所の市場に買いに行きました。リンゴやオレンジは、少しでも美しく見えるように表面を磨き、高く積み上げ売っています。野菜は日本と同じキュウリ、ナス、トマト、ホウレンソウが売られていますが、大根と白菜がありません。買物で不便なのはやはり言葉で、アゼル語で書いてある説明が全くわからないし、英語の質問は通じないので缶詰はラベルの絵だけが頼りです。肉はどの部分かわからないので、買ってみたらひどく硬くて調理に困ったことがあります。スパゲティを食べようとミートソースを買ったのに、缶を空けたら麺も一緒に出てきて驚いたこともあります。お米はいろいろな種類があるので、形が日本の米に近いのを選んで買っていました。電気釜がないので鍋で炊いていましたが、焦げや

すくて困りました。大きなスーパーに行くと食料と日用品は一通りありますが、日本の調味料、特に醤油がないので困ります。一度醤油を確かめて買ったのですが、酢が強いものでした。キャビアはいつでもどこでも売っています。でも品質と値段に大きなばらつきがあり、見極めが難しいです。ダウンタウンの中心広場にはマクドナルドがあって、値段はかなり高いのにすごい人気です。同行している仲間以外は、日本人をめったに見ません。日本製品もほとんど見かけません。ソニーのプレイステーションが



バクー郊外の集合住宅

あったぐらいです。なお、車は古いロシア製と韓国製が中心です。

生活の環境問題

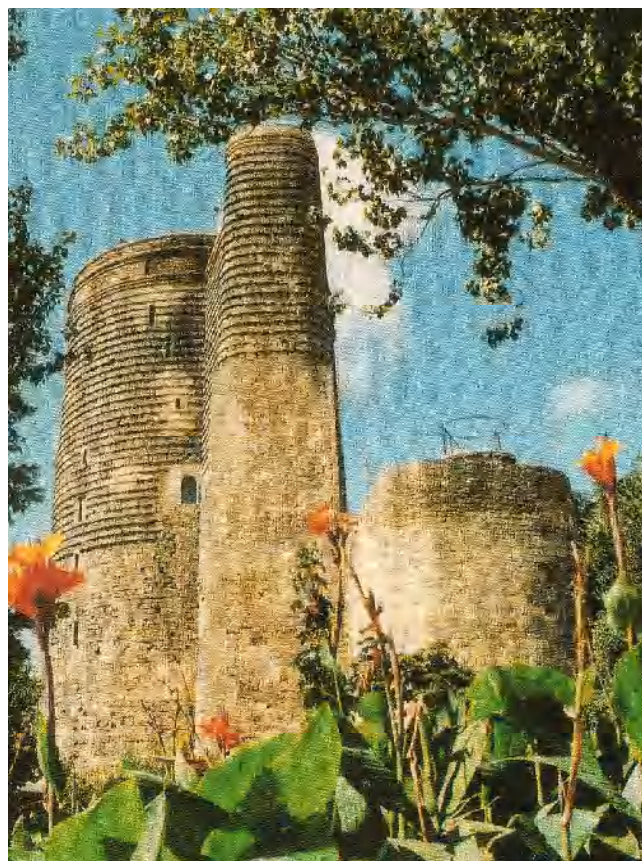
生活に関する環境問題で気になったことがあります。それはいたるところに散らかっているポリ袋です。バクーにはごみの焼却施設がないので郊外に埋め立てていますが、埋め立てというよりもただの投棄です。収集が不完全なので、近場に勝手に捨てる人も少なくありません。ですからごみと一緒に捨てられたポリ袋が、強い風で周囲数キロに吹き飛ばされ、木々の枝や灌木の茂みにひっかかって景観を台無しにしています。木の枝にひっかかっている姿は、まるで枯れ木に大きな花が咲いている感じで、草原は不自然なお花畑のように見えます。それなのに今は小さな商店までポリ袋を多用しており、特にスーパーマーケットは日本よりも安易にポリ袋を使用しています。

私はすでに何の対策もないごみ捨て場と、強い風に飛ばされるポリ袋を見てしまったので、自分のごみを捨てるのが気になりました。でもポリ袋を使わなければ、他に捨てる方法がありません。ごみの焼却施設がない地域は、ポリ袋の使用を禁止した方がよいのではないか、などと乱暴なことを考えたりしました。もう一つの生活に関する環境問題として、交通公害が注視されています。たしかに交通量は少なくありませんが、交通渋滞が頻発するほどでもないし、排気ガスが臭うこともありません。バクーに比べたら東京の環状線の

方が問題でしょうし、東南アジアの都市部に比べたら全く問題にならないでしょう。交通公害と云いながら、バクーでは自転車が使われていません。ほとんど1台も走っていないのです。中国のように、通勤や通学に自転車を使えば大気環境に好ましいと思うのですが、バクーでは自転車がダサイと思われているのです。子供の遊び用も含めて、自転車がこれほど一般化していない国を見たのは初めてです。バイクも同様に、3ヶ月間にほんの数台しか見ていません。私は自転車より、汚れた建物やポリ袋の花の方がよっぽどダサイと思うのですがね。バクーにいと「美しい」とか「きれい」という価値観が、「お金」とか「機能」という価値観に比べて乏しい気がします。ですから、なにかうまいおいの「かさかさした」感じが強いのです。このような環境では芸術家が育ちにくい気がします。

バクーの住宅

バクーの人達の住宅は、基本的に集合住宅です。一番多いのは5階建てで、次は9階建て、その上は12階建てです。部屋の広さは50平方メートル程度の2DKが中心です。5階建てまでエレベーターがないのは、日本の中層集合住宅と同じです。ベランダの構造も日本と同じですが、居住者がベランダの上部をガラス窓にし、勝手に居住面積を増やしている家が多いです。このような改造は、中国でもよく見られる風景です。日本と同じように洗濯物はベランダに干すのですが、それでも足りなくて隣の家のベランダまでロープを伸ばしています。隣の家だけではなく、電柱や街路樹が近い家は、そこまで10メートル以上もロープを張って洗濯物を干しています。ロープの両端には滑車がついていて、洗濯物を干すときや取りこむときは、カラカラと音を立ててロープを引っ張ります。生活の知恵ですね。郊外は市街地より土地が広いので、新しい一戸建てが増えていますが、それでも集合住宅が圧倒的に多いです。



バクー中心部の観光スポット“乙女の塔”

(その3) に続く